話題の「進撃の巨人」を筆頭に見てもらえる機会があるのならぜひ親子で見に来てほしいですね。

㈱WITSTUDIO取締役・アニメーター
浅野恭司さん（古河市出身）

1975年古河市生まれ。
30分のテレビアニメ番組に毎週約5〜6,000枚もの動画や原画が使われる世界に身を置く浅野さん。高い作画技能と表現力・集中力がキャラクターを際立たせています。アニメへの思いを伺いました。

今、思い出してみると小さい頃から絵を描くのは好きでしたね。幼稚園のお絵かきの時間に〝ガンダム〟とか描いていました(笑)。ボクには兄がいるのですが一緒にテレビのアニメ番組もふつうに見ていました。小学生になってクラスに友だちができ、休み時間になるといろいろなキャラクターを描いては見せ合ったりして、当時「少年ジャンプ」がボクの絵の教科書のようなものでそこから入って行きました。アラレちゃんやキャプテン翼、特にドラえもんやパーマンでおなじみの藤子・不二雄さんが大好きでした。

中学生の時に初めてアニメ雑誌の存在を知り買ってから、どんどんとハマってしまいました(笑)。好きだったとはいえあまり自分から描いたものを投稿したりはしませんでしたが、後に自分が所属することになったプロダクションI.G作品のロボットアニメ「機動警察パトレイバー」がこの道へ進むきっかけだったです。

高校に入るとアニメ熱はさらに拍車がかかり、真剣にアニメーターになりたいと思いました。友達と一緒に「代々木アニメーション学院に行きたいよね」と話し情報を集め進学したいと両親に話しました。反対されるかと思っていましたが「そこまでやりたいならいいよ」と許してくれて、いよいよ〝おたく街道まっしぐら〟(笑)です。2年間の専門学校では美術学校等と同じように絵に関する基礎知識や技術を学びます。アニメーションは各分野に分かれていて、色を塗る、背景を描く、原画を描く、監督になるといったコースで違います。ボクは原画が描きたいと思っていたのでそちらを志望しました。あっという間の2年間でしたが、周りの人たちとの交流もボクにとっては良い吸収材料だったように思います。

卒業間近の就活の時に、学院の先生から「アニメ制作会社プロダクションI.Gへ行かないか?」とすすめられました。その会社は人気アニメをたくさん輩出しているクオリティーがとても高い業界です。「自分はムリ」と断ったのですが入社試験だけでも受けるように言われて受けたところ合格してしまいました。アニメ好きなら誰れもが憧れる会社ですから入社した時は希望に満ち溢れていましたが、それはすぐに打ちくだかれ厳しい試練が待っていました。まず最初に動画が描けるようになるための規定が設けられており、月500枚という設定です。仕事ですからこなさなくてはなりません。その作業を黙々と3ヶ月間描き続け何とかクリアしました。ボクは大丈夫だったのですが中には手が腱鞘炎になる人もいましたね。動画を1年間やった後、試験を受けて目標としていた原画制作の担当となりIGで18年間仕事をして来ました。

2012年6月に元プロダクションI.G6課から独立したWITSTUDIOに所属して諫早創氏原作のテレビアニメ「進撃の巨人」のアニメーション制作をずっと担当して来ました。

今回、古河市文化協会さんとWITSTUDIOがコラボしてボクの原画展を開催してくれることになり大変喜んでいます。ぜひ大勢の方々に作品を見ていただき、アニメの舞台裏を知ってもらえれば嬉しいです。

担当作品リスト

★キャラクターデザイン

- ■進撃の巨人
- ■SYCHO-PASS サイコパス

★作画監督

- ■劇場版 戦国BASARA —The Last Party—
- ■君に届け
- ■攻殻機動隊 STANDALON COMPLEX

他多数